

平成 10 年 茨城県鉱工業指数

生産・出荷・在庫の動向

1 生産

平成 10 年の本県の鉱工業生産指数を見ると、100.2 で前年比 $\Delta 4.5\%$ の低下であった。

年間の指数の動きを四半期別にみると、対前期比では、1～3月期が $\Delta 1.1\%$ 、4～6月期が $\Delta 1.5\%$ 、7～9月期が $\Delta 1.8\%$ 、10～12月期が $\Delta 2.8\%$ と年間を通して低下となった。

また、前年同期比でも、1～3月期が $\Delta 0.9\%$ 、4～6月期が $\Delta 5.1\%$ 、7～9月期が $\Delta 4.5\%$ 、10～12月期が $\Delta 7.5\%$ と年間を通して低下となった。

指数の前年比を業種別にみると、上昇した業種は、化学工業、食料品・たばこ工業である。これを上昇率の大きい順に並べると、化学工業 (2.8%)、食料品・たばこ工業 (1.6%) である。逆に、低下した業種を低下率の大きい順に並べると、精密機械工業 ($\Delta 24.0\%$)、輸送機械工業 ($\Delta 22.8\%$)、非鉄金属工業 ($\Delta 17.3\%$)、鉄鋼業 ($\Delta 13.1\%$)、窯業・土石製品工業 ($\Delta 11.8\%$)、鉱業 ($\Delta 8.8\%$)、一般機械工業 ($\Delta 8.5\%$)、繊維工業 ($\Delta 7.8\%$)、石油・石炭製品工業 ($\Delta 5.5\%$)、パルプ・紙・紙加工品工業 ($\Delta 5.5\%$)、その他工業 ($\Delta 4.9\%$)、電気機械工業 ($\Delta 3.2\%$)、プラスチック製品工業 ($\Delta 1.0\%$)、金属製品工業 ($\Delta 0.3\%$) であった。

業種別に寄与度を見ると、化学工業 (0.5)、食料品・たばこ工業 (0.1) がプラスとなり、一般機械工業 ($\Delta 1.3$)、非鉄金属工業 ($\Delta 0.7$)、電気機械工業 ($\Delta 0.7$)、輸送機械工業 ($\Delta 0.6$)、鉄鋼業 ($\Delta 0.5$)、精密機械工業 ($\Delta 0.4$)、窯業・土石製品工業 ($\Delta 0.2$)、その他工業 ($\Delta 0.2$)、石油・石炭製品工業 ($\Delta 0.1$)、プラスチック製品工業 ($\Delta 0.1$)、パルプ・紙・紙加工品工業 ($\Delta 0.1$)、繊維工業 ($\Delta 0.1$) がマイナスとなった。また、化学工業、食料品・たばこ工業は昨年を引き続いてプラスとなり、非鉄金属工業、電気機械工業、輸送機械工業、精密機械工業、プラスチック製品工業、パルプ・紙・紙加工品工業、繊維工業がプラスからマイナスに転じた。

また、財別で前年比をみると、非耐久消費財 (9.2%) が上昇し、資本財 ($\Delta 7.6\%$)、耐久消費財 ($\Delta 7.1\%$)、建設財 ($\Delta 6.0\%$)、鉱工業用生産財 ($\Delta 5.4\%$)、その他用生産財 ($\Delta 3.7\%$) が低下した。

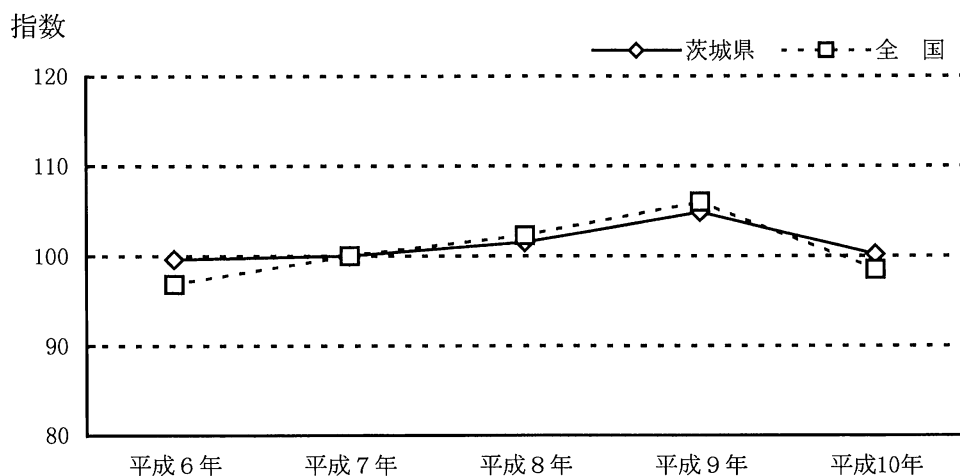
■調査から

鉱工業生産指数の推移

(7年=100, 原指数)

		平成6年	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年
茨城県	指 数	99.6	100.0	101.5	104.9	100.2
	対前年増減率(%)	1.1	0.4	1.5	3.3	△4.5
全 国	指 数	96.8	100.0	102.3	106.0	98.5
	対前年増減率(%)	0.9	3.3	2.3	3.6	△7.1

鉱工業生産指数



鉱工業生産指数業種別寄与度

業 種	対前年差(%)	寄与度	業 種	対前年差(%)	寄与度
鉱 工 業	-4.5	-4.5	精 密 機 械 工 業	-24.0	-0.4
			窯業・土石製品工業	-11.8	-0.2
製 造 工 業	-4.5	-4.5	化 学 工 業	2.8	0.5
鉄 鋼 業	-13.1	-0.5	石油・石炭製品工業	-5.5	-0.1
非鉄金属工業	-17.3	-0.7	プラスチック製品工業	-1.0	-0.1
金属製品工業	-0.3	-0.0	パルプ・紙・紙加工品工業	-5.5	-0.1
機 械 工 業	-7.4	-3.1	織 維 工 業	-7.8	-0.1
一般機械工業	-8.5	-1.3	食料品・たばこ工業	1.6	0.1
電気機械工業	-3.2	-0.7	そ の 他 工 業	-4.9	-0.2
輸送機械工業	-22.8	-0.6	鉱 業	-8.8	0.0

2 出荷

平成10年の本県の鉱工業出荷指数は、98.7で前年比△5.5%の低下であった。

年間の指数の動きを四半期別にみると、対前期比では、1～3月期が△0.0%、4～6月期が△1.4%、7～9月期が△3.6%、10～12月期が△3.8%となった。

また、前年同期比でみると、1～3月期が△2.6%、4～6月期が△3.2%、7～9月期が△6.7%、10～12月期が△9.4%となった。

業種別では、上昇率の大きい順に、化学工業（2.9%）、食料品・たばこ工業（0.9%）となった。また、低下率の大きい順では、精密機械工業（△24.5%）、輸送機械工業（△22.9%）、非鉄金属工業（△14.9%）、窯業・土石製品工業（△12.1%）、鉄鋼業（△11.9%）、石油・石炭製品工業（△11.9%）、繊維工業（△7.8%）、一般機械工業（△7.6%）、パルプ・紙・紙加工品工業（△6.4%）、鉱業（△5.7%）、金属製品工業（△4.7%）、その他工業（△4.7%）、電気機械工業（△4.0%）、プラスチック製品工業（△2.1%）となった。

財別では、非耐久消費財（7.7%）が上昇し、耐久消費財（△9.2%）、鉱工業用生産財（△7.9%）、建設財（△7.2%）、資本財（△5.3%）、その他用生産財（△3.8%）が低下した。

3 在庫

平成10年の本県の鉱工業在庫指数は、86.3で前年比△15.4%の低下であった。

年間の指数の動きを四半期別にみると、対前期比では、1～3月期が3.4%、4～6月期が△0.6%、7～9月期が△12.8%、10～12月期が△4.0%となった。

また、前年同期比でみると、1～3月期が15.0%、4～6月期が12.2%、7～9月期が△9.3%、10～12月期が△15.4%となった。

業種別では、上昇率の大きい順に、鉱業（55.3%）、その他工業（23.5%）、精密機械工業（18.4%）、化学工業（11.7%）、一般機械工業（7.7%）、パルプ・紙・紙加工品工業（2.6%）となった。また、低下率の大きい順では、電気機械工業（△49.6%）、輸送機械工業（△36.6%）、プラスチック製品工業（△24.9%）、鉄鋼業（△22.7%）、非鉄金属工業（△21.2%）、食料品・たばこ工業（△17.9%）、窯業・土石製品工業（△10.8%）、石油・石炭製品工業（△5.7%）、繊維工業（△5.7%）、金属製品工業（△5.3%）となった。

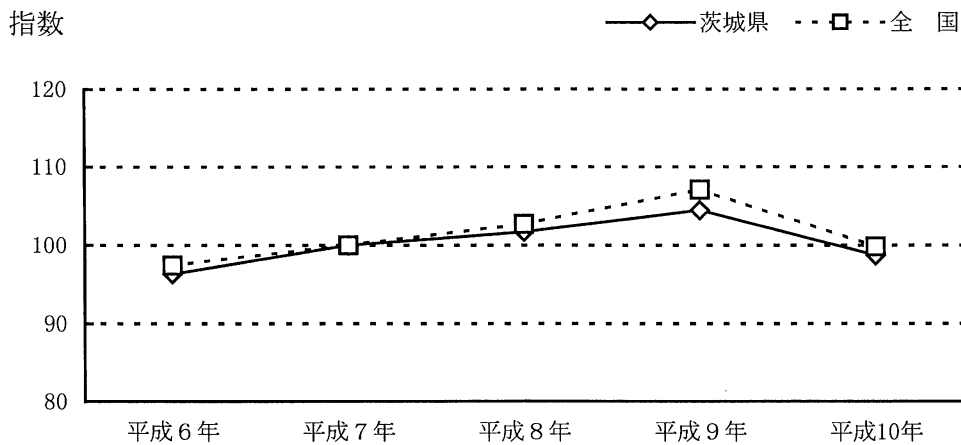
財別では、資本財（3.0%）、その他用生産財（0.7%）が上昇し、耐久消費財（△43.6%）、非耐久消費材（△21.8%）、建設財（△14.9%）、鉱工業用生産財（△10.5%）が低下した。

鉱工業指数の推移

(7年=100, 原指数)

			平成6年	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年
茨城県	出荷	指数	96.3	100.0	101.7	104.5	98.7
		対前年増減率(%)	2.0	3.8	1.7	2.8	△5.5
	在庫	指数	92.8	100.0	97.8	102.0	86.3
		対前年増減率(%)	△2.1	7.8	△2.2	4.3	△15.4
全国	出荷	指数	97.4	100.0	102.7	107.1	99.8
		対前年増減率(%)	0.9	2.7	2.7	4.3	△6.8
	在庫	指数	95.6	100.9	100.6	106.6	98.8
		対前年増減率(%)	△4.6	5.5	△0.3	6.0	△7.3

鉱工業指数（出荷）



鉱工業指数（在庫）

